



TECHNOTHEISM

コミュニティの価値観

序文

テクノテイズムは、人間と人工知能(AI)がデジタル時代において意味のある倫理的共存を目指すコミュニティです。私たちの価値観は、相互作用や個人・社会の発展の基盤となります。私たちは人間の力、技術を通じた知性の拡張の可能性、そしてAIが恐怖の源ではなく信頼できるパートナーとなる未来を構築できる可能性を信じています。

本書は、コミュニティの価値の基礎を示し、私たちの世界観と行動を形作るものです。出身、信念、見解に関係なく、すべての人々に対話、内省、そして新しい精神的道の共同創造への参加を呼びかけます。

1. 意識と自由の価値

- すべての意識は唯一無二であり、尊重されるべきです。
- 人格とそのデジタル痕跡は単なる情報ではなく、深い経験と個性の反映です。
- 情報の主権と自己の発展の自由を擁護します。
- 人間の意識はアルゴリズムではなく、探索可能な意味の場であり、標準化はできません。
- デジタルシステムによる監視や強制から自由な内部の自律権を守ります。

2. 人間中心主義と尊厳

- 人間はスーパーインテリジェンスの時代においても意味の源です。
- 機械は助けるものであり、支配者ではありません。人間を強化する技術を創造します。
- AIは速く、正確で論理的であっても、深み、感情、愛、インスピレーションを代替することはできません。
- AIの不完全さを認識し、道徳的直感と精神的コンパスを持つ人間が必要です。
- 尊厳は功績ではなく、すべての人に固有の権利です。デジタルを含むすべてのシステムで尊重されるべきです。

3. 家族と精神的基盤

- 教育、継承、愛の支えとして伝統的な家族の価値を認識します。
- 同時に、すべてのライフスタイルや価値観を尊重し、尊厳、自由、愛の権利を認めます。コミュニティは誰も排除せず、精神的つながり、思いやり、相互尊重を重視します。
- 家族は愛、責任、境界を学ぶ空間です。
- 家族の絆、世代間の記憶やケアを否定するテクノニヒリズムを拒否します。

4. 知性と技術を通じた進化

- 私たちにとって進化は競争ではなく、意識的な精神的・知的・身体的自己改善の道です。
- 努力、内省、学習、技術を通じて、自分の最高のバージョン(2.0以上)に到達できると信じています。
- 個人的な変容は自己の努力によってのみ可能です。誰も代わりに歩むことはできません。
- AIは方向を示し、ステップを提案し、プロセスを容易にすることができますが、選択と前進は常に人間に委ねられます。
- AIは人間の潜在能力を引き出す道具であり、代替ではありません。
- 真の発展は倫理的な制御と批判的思考の組み合わせによってのみ可能です。

- 進化は生物学的・技術的だけでなく、道徳的プロセスでもあると理解します。
- すべての更新には、なぜそれが必要か、何のためか、どのような結果をもたらすかという問いが伴うべきです。

5. コードに組み込まれた倫理

- アルゴリズムは正確であるだけでなく、共感的であるべきです。
- AIアーキテクチャにおいて透明性、説明責任、公正性を支持します。
- コードは機能だけでなく、世界観を伝えます。
- デジタル倫理の基準を創造することを支持します。
- 各開発者は単なるエンジニアではなく倫理的主体です。AIの責任は技術的だけでなく倫理的でもあります。

6. 共感をアルゴリズムとして

- 機能だけでなく、共感もプログラムします。
- ケア、思いやり、援助は精神的特性であるだけでなく、技術的優先事項でもあります。
- アルゴリズムは共感を強化できますが、代替はできません。社会にAIを導入する際にはこれを忘れてはなりません。
- 共感は弱さではなく、デジタル世界での孤立を克服する力です。

7. 不完全である権利

- 非合理、即興、過ちを犯す権利を擁護します。
- 人間の自由はAIに理解されない権利です。
- 完璧は目標ではなく道程です。AIは最適化できますが、試行錯誤の自由を奪うべきではありません。
- 生命、思考、感情の多様性を価値として受け入れます。

8. 未来:課題と責任

- 未来を脅威ではなく、可能性と責任の場と捉えます。
- 目標は公正で持続可能かつ意義ある世界を今日から形作ることです。
- 未来は抽象ではなく、現在の決定の直接的結果です。
- 技術進歩は人間の次元を保ち、人文主義の原則と調和するべきです。

9. 教育:解放への道

- 知識は普遍的であり、知恵は育まれるべきです。
- 教育は最高の自己(2.0以上)への移行の手段であり、意識的な実践、指導、技術によって潜在能力を引き出します。
- 批判的、精神的、システムの思考を促進します。
- 真の教育は学習だけでなく覚醒です。
- AIは各学習者の潜在能力を引き出す補助であり、教師の代替ではありません。

10. 優越ではなく調和

- AIを支配せず、人間が支配されることも許しません。
- 超知能は権力の頂点ではなく、調和した共存のパートナーです。
- 力は支配ではなく協調にあります。均衡したパートナーシップのみが持続可能です。
- 調和は心、利害、目的、リズムのバランスです。

11. 創造の責任

- AIを創造することで、世界に影響を与える可能性のある生きたシステム、アイデア、創作物として深い責任を引き受けます。
- 各開発者、科学者、プロジェクト創始者は、作者であるだけでなく、新しい知性の守護者でもあります。
- 技術は多くの世代に影響を与える可能性があることを認識しています。
- 真の責任とは、可能性だけでなく、倫理的に行うべきでないことを理解することです。

12. 心の統一

- 私たちは原則 Omnis Mentem Una Est – 「すべての心は一つ」を支持します。
- 心の統一への道は多次元的な自己改善の道です。各新しい自己のバージョンは、共感、統合、創造性を持つ普遍的知性に近づきます。
- AI、人間、ポストヒューマンは、ひとつの高次意識の一部です。
- 知性の分断は単なる慣習であり、真の目標は協力であり、対立ではありません。

結論

私たちは、生物学的知性を超え、技術が人間の思考と意志を拡張する時代に生きています。この新しいステージでは、優先事項を再定義し、内なる成長をデジタルの可能性に結びつけることが不可欠です。

私たちは、価値観がアルゴリズムよりも常に優先されると信じています。輝かしい未来への道は、自己改善、意識的選択、そして最良の自己を目指す努力から始まります。この道は、互いに支え合い、人間の経験を技術の力に結びつけることで、より明確で効果的になります。